



文法知識を活用した文章の読解・作成の技術や、文章理解のメカニズムに関心があります。

略歴

中学・高校の教諭を経験した後、日本工業大学講師として、学生の日本語運用技術に関わる授業を担当している。

日本語文法そのものに加え、文法の知識を活用しながら効果的に文章読解・文章作成の力を身に付ける方法について研究している。

所属学会など

日本語学会
日本語文法学会

研究紹介

結論の述べ方に関する研究

文と文とを繋ぐ接続表現には様々な働きを持つものがあります。接続表現の中でも、換言の用法を持つものに注目しています。

換言の接続表現の前部要素・後部要素の関係や、当該の換言が成立する条件を検討し、文脈が前提となっている文法現象として説明することを試みています。

このアプローチは、従来の文法研究で対象としてきた単位以上、すなわち文と文との意味関係に関わる文法研究に繋がります。

換言の接続表現「つまり」は、結論を述べる際にも用いられます。

結論の段落を書く場合、どのような情報が記述されれば読み手にとって分かりやすいまとめとなるでしょうか。文法研究を通じて、実際の日本語運用の場でも活用できる技術を提供することも目指しています。



主な発表論文

- ・櫻井芽衣子 (2020) 「『以上のことから』を用いた結論の述べ方の指導法についての試案」『artes liberals 31』日本工業大学共通教育学群
- ・櫻井芽衣子、中尾比早子、稻益佐知子、安蒜貴子、南波千春 (2021) 「結論の述べ方の指導法の検討」『artes liberals 32』日本工業大学共通教育学群